

<h1>第306回月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	確認
	企画運営委員長 増田	企画運営委員

- ◎ 日時 2018年10月26日(金) 10:00~16:30
- ◎ 場所 きゅりあん 4階 第1特別講習室
- ◎ 出席者 20名 (法人会員: 15名 個人会員: 5名 オブザーバ: 0名)

1. 報告事項

1) 自己紹介・トピックス紹介

① 企画運営委員長挨拶

本日も、いつも以上にみなさまから活発なご意見をいただき進めてまいります。

10月度の月例会で紹介しましたが11月1日、2日に機械安全の入門講座講習会(MSE-D コース)の2講座に無料開催されます。会員の皆様の奮っての参加をお願いします。希望者があれば事務局にお問い合わせください。

② その他

- ・ 会員企業から、欧州のRAIについて、日本の進め方との差異の紹介があった。
- ・ 今後の月例会テーマですが、45001 解説(詳細版)、油空圧機器(残圧課題等)、12月講演(向殿先生)を含め企画検討中です。会員の皆様、社内の課題などから今後月例会で取り上げて欲しいテーマがございましたらご連絡ください。
- ・ また、どのような講習会(企業内講習を含め)を期待したいのか、皆様のニーズに対応して行きたいと考えています。会員の皆様からの要望・意見を是非お知らせください。

2) 定例報告

① 第305回月例会・第31回企画運営委員会の概要。

- ・ 詳細は「第305回月例会議事録」参照。

② 第30回関西月例会・関西委員会活動報告概要。

- ・ 詳細は「第30回関西月例会議事録」参照。

2. テーマ「リスクアセスメント/危険源から危害に至る同定方法の解説と討議と 会員企業からの災害事例紹介」

13:00～15:00 リスクアセスメント委員会

【主な意見】

- ・ 現場の機械による労働災害をみると、不安全行動が大きな要因になっているケースも少なくない。
- ・ ルール違反による災害は防げるか。
- ・ 機械設備のリスクアセスメントでどの様に対応して行けるか。
- ・ 古い既存設備のリスク低減方策を諦めざるを得ないか？ しかしリスクアセスメントでの分析は必須では。
- ・ リスクアセスメントを実施する会員企業の海外工場が発生した機械製品製造ラインの複数の災害事例紹介と質疑がされた。

【委員会報告概要】

リスクアセスメント(リスク低減方策は含めず)を簡単にできる、重要危険源を見逃さない、ためにはどうしたらよいのか。また危害のひどさ・発生頻度(回避の)をどう判断したらよいのか。

まずはここに焦点を合わせて、誰にでも簡単に、適切に実施出来るリスクアセスメント方法の提供を、初年度の目標としている。

3. 報告テーマ「安全要求仕様書を有効に活用する解説 第2回」

15:10～16:30 企画運営委員会

説明資料により「安全要求仕様書」の説明がされた後、現場で「安全要求仕様書」を有効に活用することを目的に意見交換をおこなった。

自社の安全要求仕様書を運用している数社参加会員企業を含め参加者で活発な討議がされた。

(下記の3資料を参照の事)

【主な意見】

- ・本仕様書は「発注者ユーザー組織間」の、「ユーザーと機械メーカー間」のコミュニケーションツールとして作った。
- ・本安全要求仕様書は、主として中小企業向けに作成されたものであるが、中小企業向けとしても、どこのレベルの企業を対象にするのかぼやけているように思える。
- ・要求仕様書の必要性は分かるように説明されているが、実際に使うならもっと易しくしたい。
- ・メーカーとしては安全要求の明確化がされよいが、ユーザーが理解して記述しているのが前提だ。
- ・ISO、JIS 番号、3ステップも解さないレベルのユーザ・メーカーにも活用出来る考慮が欲しい。
- ・要求仕様の基準された規格類の番号が明記されていることはやはり必要。
- ・社内基準書を元にして要求仕様書(安全要求仕様含む)を作成してメーカーに提示している。
- ・完璧にしてから出すのは避け、まずは実使用してもらいその反応を見て改良して行くのがよい。
- ・他

参照資料 3部

2018年9月活動報告資料としてHPIに掲載中。

- ・『「安全要求仕様書」の手引き』(概要説明資料)

- ・『安全要求仕様書(ver13)』
- ・『安全要求仕様書(ver13)付録』

月例会説明資料

資料番号	資料名
	今月度は無し